

❖ 遺跡・調査技術研究室の開設

遺跡・調査技術研究室は遺跡および文化財調査技術の研究を目的として、今年春から活動をはじめた研究室です。現在、考古学を専門とする2名の研究員と1名の客員研究員、そして1名の派遣職員で構成されています。

埋蔵文化財センターにかつて存在した遺跡調査技術研究室、遺物調査技術研究室、発掘技術研究室、測量研究室等の伝統を受け継ぎ、測量・計測についての研究、発掘技術の開発と普及、文化財探査手法の応用を主な課題として活動を開始しました。

これらの分野は、地理学、土木工学、物理学といった専門知識を必要としており、少数の研究者で全てを網羅することはほとんど不可能です。このため、各方面の専門家と連携をはかりながら研究を進めていく必要があります。

逆もまたしかり。得られた成果が一人歩きして歴史資料にいささか奇妙な解釈がおこなわれてしまうこともよくあります。このような問題に対しては専門外だからと全てをまかせきりにするのではなく、また成果を絶対と信じ込むことをいましめながら、常に意見の交換をおこなうことが不可欠であると思っています。

私達の最終的な目的は、遺跡の理解を通じて歴史研究を進めることにあります。他分野の専門家との連携をするときには、その目的をいかに伝え、得られた成果を評価していくのか、という橋渡しの役割が必要です。そのためにも考古学研究者としての視点を堅持しつつ、研究と連携を進めていきたいと考えています。

まだ生まれて間もない研究室ですが、現在までに



石仏の測量(笠置寺)

いくつかの試験的な研究を進めています。

測量機器の評価と活用の分野では、トータルステーションの効果的な活用方法の模索やGPSによる位置計測の検討、国内外の研究者に対する測量技術の研修をおこないました。

デジタル写真やレーザスキャナによる三次元計測としては、笠置山の石仏の試験的計測や中国の隋唐墓出土資料の計測をおこない、使用に際しての課題を明らかにすることができました。

遺跡における物理的手法を用いた文化財探査も、日本各地の文化財担当機関と連携しながら活発に進めています。11月末現在で岩手県から山口県まで、様々な対象と方法を用いた探査を実施しています。また、研究者を対象としたワークショップを通じて、理解を広める試みもおこないました。

加えて、得られた情報をいかに統合し、歴史資料として活用するのか、という課題に対応して、空間情報科学の積極的な活用と情報収集を進めています。

これらの試みは、まだ全て満足できる結果が出ているとはいえませんが、試行錯誤をくり返しながら基礎的な研究を続行し、文化財の調査技術の向上に寄与していきたいと考えています。

また、埋蔵文化財センターの中核的な仕事のひとつである専門・一般研修や、文化庁の委託をうけて実施している『発掘調査のて引き』の編集事務局も担当しています。

今後、各地でおこなわれている発掘調査の実態を収集し、必要とされている技術の開発と普及をはかっていくことで、より多様な文化財の情報を引き出すお手伝いをしたいと考えています。今後の研究の進展にご期待ください。

(埋蔵文化財センター 金田 明大)



ワークショップの様子(平城宮東方官衙地区)